

「農林水産業競争力アップ技術開発事業」で実施中の研究テーマ一覧

農業試験場

研究テーマ(実施期間)		研究概要
辛みのないシシトウ県オリジナル新品種 ‘ししわかまる’の高収益栽培技術確立 (R4～R6)		シシトウ‘ししわかまる’の収量及び秀品率向上に向けた栽培技術を開発する。 ・枝の誘引・整枝技術の検討 ・養分吸収特性を基にした肥培管理技術
葉かび病からブランドミニトマトを守るための 緊急対策 (R4～R6)		ミニトマト葉かび病の発生生態を解明し、防除対策を確立する。 ・発生生態調査による防除適期の解明 ・薬剤及び耕種的防除の効果検証
イチゴ‘まりひめ’高品質・多収に向けた環境 制御時の効率的な養水分管理技術開発 (R5～R7)		高設栽培での糖度安定化と増収を可能とするための環境制御 に応じた給液管理を確立し、マニュアル化する。 ・適正な日射比例式給液の開発 ・時期別の適正な給排液EC管理の確立
イチゴ‘まりひめ’の炭疽病対策 (R5～R7)		炭疽病対策として、病原菌感染リスクの低い親株育成方法を確 立し、マニュアル化する。 ・感染リスク評価に基づく親株育成時期の検討 ・感染リスクが低い時期の親株栽培管理手法の確立 ・薬剤による効果的な感染予防方法の確立
低コストかつ持続可能なショウガ施肥体系 の確立 (R6～R8)		プラスチックを使用しない緩効性肥料と有機質資材を配合した、 安価で価格変動の少ない肥料による施肥体系を確立する。 ・養分吸収特性に適合する配合肥料の開発 ・新肥料を用いた施肥体系の確立と実証

暖地園芸センター

ハウス実エンドウにおける品質不良莢・病害 抑制のための温湿度制御技術開発 (農業試験場と共同研究) (R5～R7)		品質不良莢・病害抑制のための温湿度制御技術を開発し、マ ニュアル化する。 ・品質不良莢・病害抑制のための温湿度条件の解明 ・温湿度制御手法の確立
土耕での高糖度ミニトマト栽培における日射 比例灌水技術の開発 (農業試験場と共同研究) (R6～R8)		基準糖度を維持した上での収量向上を実現する日射比例灌水 技術を開発する。 ・土壌環境モニタリングと灌水評価方法の確立 ・水分ストレス評価のための生育指標の確立 ・日射比例灌水技術の確立

果樹試験場

<p>ウンシュウミカン新品種‘あおさん’の栽培体系の確立 (R4~R6)</p>		<p>新品種‘あおさん’の栽培特性を解明し、地域に応じた栽培体系を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・気象条件に応じた適切な収穫時期の解明 ・貯蔵特性、果実品質、肥大特性の解明 </p>
<p>県オリジナル中晩柑‘はるき’の産地化に向けた幼木、着果及び貯蔵の管理技術の確立 (R4~R6)</p>		<p>‘はるき’の初期生育の安定化、果実の安定生産、出荷期間延長のための管理技術を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼木の栽培管理技術の確立 ・包装資材等の検討による貯蔵管理技術の確立 </p>
<p>傾斜地果樹園における省力的施肥技術の開発 (かき・もも研究所、うめ研究所と共同研究) (R5~R7)</p>		<p>ドローン散布向け果樹用の高成分肥料を開発し、自動航行ドローンを用いた傾斜地における施肥技術を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドローン用肥料の開発 ・傾斜地園でのドローン肥料散布方法の確立と実証 </p>
<p>カンキツにおけるドローンを用いた夏季の防除体系の確立 (R5~R7)</p>		<p>ドローンによるミカンハダニの夏季の防除体系を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各種殺ダニ剤のドローン散布による防除効果及び散布条件の解明 ・薬剤の高濃度混用による防除効果、薬害の検証 </p>
<p>立木とネットを利用した軽量のシカ捕獲用囲いワナの開発 (R5~R7)</p>		<p>高強カポリエチレン繊維ネットと立木を利用し、軽量で設置容易な囲いワナを開発し、マニュアル化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新規囲いワナの開発・改良および捕獲効果の検証 ・安全性の高いシカ保定技術の開発 </p>
<p>EUへの輸出に対応したサンショウの病害虫防除体系の確立 (R5~R7)</p>		<p>EU農薬残留基準値に適合した、実用性のあるサンショウの病害虫防除体系を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的防除技術等の有効性の検討 ・農薬残留基準値を超過しない収穫時期の解明 </p>
<p>サンショウの分割採取、摘心による安定生産技術の開発および台木の検討 (R6~R8)</p>		<p>分割採取および摘心処理による連年安定生産技術の開発と幼木の早期樹冠拡大に適した台木を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な分割採取割合の検討と摘心処理による樹体への影響調査 ・台木の違いによる幼木の生育特性の解明 </p>
<p>早生ミカンの着果期間延長技術の開発 (R6~R8)</p>		<p>早生ミカンの12月収穫、出荷に向けた着果期間延長技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・着果期間延長による果実品質、樹体栄養の変化の解明 ・クラッキング対策技術、樹勢回復技術の確立 </p>

かき・もも研究所

<p>カキ炭疽病の効率的防除対策の確立 (R5~R7)</p>		<p>カキ炭疽病の効率的な防除対策を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発病リスクに基づく、発病残渣の簡便な処理方法の確立 ・病原菌の菌種構成の解明、菌種に応じた有効薬剤の選定およびほ場での防除効果の解明 </p>
<p>極早生「たねなし柿」の流通中に生じる早期軟化対策技術の確立 (R5~R7)</p>		<p>極早生「たねなし柿」の流通中に生じる早期軟化対策技術を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1-MCPおよび有孔ポリ+防湿段ボールによる総合的な軟化対策の確立 ・AIによる早期軟化果実の予測判別技術の開発 </p>
<p>クビアカツヤカミキリの効果的・省力的な防除技術の開発 (うめ研究所と共同研究) (R6~R8)</p>		<p>ウメ、モモ、スモモをクビアカツヤカミキリの被害から守るため、効果的、省力的な防除技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・農薬等による殺卵技術、忌避技術の開発 ・殺成虫剤の耐雨性や残効性向上技術の開発 ・ウメ産地における省力的な防除方法の確立 </p>

うめ研究所

<p>ウメの新害虫ヒメヨコバイの緊急防除対策技術の開発 (R4~R6)</p>		<p>新たな害虫モモヒメヨコバイによる葉の吸汁被害抑制に向けた防除対策技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・害虫の発生生態、樹体への影響の解明 ・防除体系(有効薬剤、防除適期)の確立 </p>
<p>温暖化に対応した梅干の高品質化技術の開発 (R5~R7)</p>		<p>温暖化に対応した新たな梅干のハウス干し方法を提示し、梅干の高品質化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・遮光、遮熱資材の利用が梅干品質に及ぼす影響 ・乾燥時の温度および光強度の違いが梅干の機能性成分に及ぼす影響 </p>

畜産試験場

<p>梅加工副産物を用いた高品質豚肉生産技術の開発 (R4~R6)</p>		<p>梅酢添加飼料の豚への影響を解明し、「紀州うめぶた」の高品質生産技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・梅酢添加飼料で肥育した豚肉の特性解明 ・飼料配合の組合せによる豚への影響解明 </p>
<p>ゲノミック育種価とホミニー飼料給与による熊野牛の脂肪質の向上 (R6~R8)</p>		<p>脂肪質のゲノミック育種価とホミニー飼料(トウモロコシの細粉、胚芽および皮からなる飼料)給与により一価不飽和脂肪酸(MUFA)の高い牛肉の肥育技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・脂肪質のゲノミック育種価と牛肉MUFAの関連調査 ・脂肪質のゲノミック育種価とホミニー飼料給与の組み合わせによるMUFA等への影響調査 </p>

養鶏研究所

<p>暑さに負けない養鶏経営 (R6~R8)</p>		<p>採卵鶏における費用対効果の高い暑熱対策技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境資材と飼料添加物の基礎データ収集 ・環境資材と飼料添加物の費用対効果の高い組み合わせ検証 </p>
--------------------------------	---	---

林業試験場

<p>クマノザクラの保全と活用に向けた雑種判定と効率的育成手法の開発 (R4～R6)</p>		<p>純系クマノザクラの保全技術を確認するとともに、植栽地での育成技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態及び遺伝子解析による雑種判定技術 ・灌水・施肥方法等による苗木の早期伸長技術
<p>ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」防除技術の早期確立 (R4～R6)</p>		<p>ヒサカキの新たな病害への対策として、薬剤による防除技術を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤による防除方法の確立 ・防除適期の解明

水産試験場

<p>アカモク藻場造成技術の開発 (R4～R6)</p>		<p>人工種苗による効率的なアカモク藻場の造成技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工種苗生産技術の開発 ・天然海域への種苗移植時期と生残率等の解明
<p>抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ～効果と普及性向上～ (R4～R6)</p>		<p>ワクチン接種及びクエン酸ナトリウム投与によるアユ冷水病防除技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種条件による効果検証 ・クエン酸ナトリウム投与濃度による効果検証
<p>アジアカエビの養殖技術の開発 (R5～R7)</p>		<p>アジアカエビの養殖技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗量産技術の開発 ・養殖技術の開発
<p>シロアマダイにおける受精卵安定確保技術の開発ならびに種苗放流に適した魚体サイズおよび海域の検討 (R6～R8)</p>		<p>受精卵安定確保技術を開発するとともに、種苗放流に適した魚体サイズおよび海域を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成親魚における採卵時期、飼料および飼育環境が卵質に及ぼす影響の解明 ・逃避能力の発達および稚魚の生息域(水深、底質など)の解明

合計 29テーマ